

早稲田大学日本語教育学会 2011年春季大会プログラム

開催日 2011年3月18日(金)

【会場】早稲田大学早稲田キャンパス 22号館 201・202・203教室

【時間】受付 9:50～10:20 (22号館2階エレベーターホール)

開会式 10:20～10:30 (第1会場:201教室)

企画 10:40～12:40 (第1会場:201教室、第2会場:202教室、
第3会場:203教室)

昼休み 12:40～13:30

ポスター発表 13:30～14:30 (第2会場:202教室)

口頭発表 14:40～16:55 (第1会場:201教室、第3会場:203教室)

【企画】10:40～12:40

時間	第1会場(201教室)
10:40～12:40	公開討論：第二言語習得研究のポストモダンの射程を探る 代表者：宮崎 里司(早稲田大学日本語教育研究科) 参加者：迫田 久美子(広島大学大学院教育学研究科)
	第2会場(202教室)
	「大規模日本語書き言葉コーパス」と日本語教育 代表者：小林 ミナ(早稲田大学日本語教育研究科) 参加者：山崎 誠(国立国語研究所) 投野 由紀夫(東京外国語大学) 奥川 育子(筑波大学大学院生) 小西 円(早稲田大学大学院生) 清水 由貴子(元・早稲田大学) 近藤 明日子(国立国語研究所)
	第3会場(203教室)
	教師間協働の過去・現在・未来を語る - 国内外の教師間協働の問題と改善方法 - 代表者：中山 英治(早稲田大学) 参加者：高橋 雅子(早稲田大学大学院生) 辛 銀眞(早稲田大学助手) 門脇 薫(摂南大学准教授) 松尾 憲暁(同志社大学他非常勤講師)

【昼休み】12:40～13:30

【ポスター発表】13:30～14:30

時間	第2会場(202教室)
13:30～14:30	(1) 「バブル・ワールド」と日本語学習 - 英語で生活できるビジネスパーソンが、日本語を学ぶ意義を探る - 鈴木 蘭
	(2) 言語教育政策の行為主体としての日本語学習者による言語管理 - 「孤立環境」における日本語学習者の意識調査より - イヴァノヴァ マリーナ

(3) Powerpoint を活用した初級語彙および文型の導入 - 視覚情報による文脈化とインダクティブ・アプローチによる提示 - 川名 恭子
(4) 地域の多様な学習者に対する日本語教育に必要な視点 - 韓国人駐在員配偶者の日本語に関する意識から - 孫 慶旻
(5) 「気持ちを伝える」音声と日本語母語話者評価 - 「謝罪」に着目して - 篠原 亜紀
(6) 学習者は協働学習をどのように位置づけたのか - 教師主導型授業を受けてきた中国人学習者の事例から - 邵 琳
(7) 学習者と学習者を取り巻く共同体との関係性の変容を振り返る - あるモロッコ人日本語学習者のライフストーリーから - 小川 理子
(8) 夜間中学における日本語教育 - 筆者と現場教師との協働実践から - 山本 さやか
(9) 「日本語活動」の実践者に求められる視点と役割 - 親子日本語サークルの実践から見たこと - 福村 真紀子

【口頭発表】 14:40 ~ 16:55

時間	第1会場 (201 教室)	第3会場 (203 教室)
14:40 ~ 15:10	振り返りによる教育観の意識化 - 実習生のダイアリー分析をとおして - 秋田 美帆	「自律性」を育てるクラスデザインの考察 - 漢字学習の実践における「個別学習」とそれを支える「グループ学習」 - 渡辺 陽子
15:15 ~ 15:45	留学による学習環境の変化と学習に対する意識の変容 安田 励子・秋田 美帆・内田 陽子・牛窪 隆太・鈴木 由美子・坪根 由香里・中山 英治	パラ言語情報の伝達と日本語教育 - 言語化と音声の調整を通して - 古賀 裕基
15:50 ~ 16:20	海外に定住する子どもへの日本語支援 - こころとことばを紡ぐ実践から - 中野 千野	日本語学習者と日本人参加者による音声学習活動 - 両者にとっての意義 - 村田 佐知子
16:25 ~ 16:55	教室実践において「主体的」が意味してきたこと 牛窪 隆太	講義理解過程におけるアカデミック・インターアクション問題と言語管理 - アイカメラを用いた内省的方法論による調査研究 - 毛利 貴美

【総会】 17:00 ~ 17:15

【懇親会】 17:30 ~ 18:40